

## 第1回 学校運営協議会 議事録

日時 令和8年5月12日(火) 14:30~16:00

場所 岡山県立瀬戸高等学校 会議室

(委員9名のうち6名が出席)

### 1 校長挨拶(任命書交付)

任命書は机上配付

- 委員を依頼するにあたっての根拠
- 令和8年度学校経営計画書

### 2 出席者自己紹介

### 3 学校運営協議会について

#### (1) 岡山県立学校における学校運営協議会の設置について

- 岡山県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則  
守秘義務が記載されているのでご確認をおねがいする。
- 岡山県立学校における学校運営協議会の運営等に関する要綱  
委員名簿の参照・組織表も参考
- コミュニティ・スクール図説

#### (2) 岡山県立瀬戸高等学校における運営協議会について

#### (3) 令和7年度学校運営協議会報告

### 4 会長、副会長選出

会長 金谷 文則 氏、副会長 信宮 誠 氏で承認

### 5 会長挨拶

金谷会長が挨拶

### 6 協議

#### (1) 令和8年度具体的な学校経営目標・計画等について

- ・令和7年度学校評価書報告  
昨年度のものをまとめて、県教育委員会への報告をしている。  
HPへ掲載している。
- ・令和8年度具体的な学校経営目標・計画  
昨年度の学校評価書を参考に、今年度の目標値を設定
- ・各課・年次の取組  
教務課 生成 AI や ICT 機器を効果的に活用するなど授業改革を進め、「生徒自

らが主体的に学ぶ授業づくり」を実践する。生徒主体のオープンスクールを企画・運営し、本校の魅力発信の強化に努める。ボランティア活動や総合的な探究の時間の活動などを中心として、学校外の方と関わる機会を増やし、生徒の学校生活満足度を上げる。インスタグラムの投稿回数を増やし、魅力発信をより一層強化する。

生徒課 基本方針に、「2 安心・安全な学校風土の醸成」を明記した。公共意識の育成、生徒との対話、民主的な学校を目指す。また、ヘルメットの着用を推奨。生徒会執行部と連携しながら校則改革について議論を深める。会場変更2年目となる瀬戸高祭のさらなる充実を目指す。教職員全員で、連携して指導の感覚をすり合わせ、公平で公正な指導を行う。また、生徒の様子・校内外の環境など、小さな変化に気づき、重大事案に発展する前に予防する措置をとる体制をつくる。

#### 進路指導課 資料参照

厚生課 地震・風水害等の大規模災害発生時において、生徒および教職員が校内に一定時間留まる状況を想定した防災備蓄品の整備の見直しを行った。1泊2日分で保存期間7年のものを購入する。

DX推進室 令和8年度は、「高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」(継続採択の3年目)、生成AIの校務活用を中心とした取組を推進する「生成AIパイロット校(B区分)」の指定を受けている。「AI共創型教育」を柱とした教育を今年度も実施する。昨年度までの課題から、今年度は「授業改革」、「探究活動の高度化」、「DXラボの活用推進」、「教職員研修」、「情報モラル教育」に取り組んでいく。

#### ・教育課程の編成に関して

R8入学生から改訂している。多様な生徒の進路希望に沿うことが出来るよう、今後成果を確認しながら進める。

#### ・組織編成に関して

変更点としては、教務課と生徒課で業務の整理を行い、式典業務の一部を生徒課が担うこととした。

#### ・予算執行に関して

学校経営予算 → 総合的な探究の時間にかかる事業計画等を載せている。

DX予算等 → DXハイスクール3年目は300万円分の事業が実施できる。  
生成AIパイロット校事業は新規事業である。

#### ・働き方改革について

本校の時間外在校等時間R7実績を見ていただき業務を整理し先生方が生徒に向き合える時間の確保について御理解と御協力を求めた。県教育委員会からのカスタマーハラスメント防止のチラシも提示した。自動切換え録音機能付き電話の導入も紹介した。

#### (2) R9年度入学生用スクールポリシーについて

育てたい生徒像に、「しなやかな感性や高い教養力」を掲げたことの共有。AI

共創型教育の継続を確認。

## 7 質疑・応答、意見交換

- (委員) 江西学区の防災に取り組んでいる。瀬戸高校のこの場所は、地震による液状化危険度が「極めて高い」地域になっている。大きな地震の後に液状化が起これると、保護者への引き渡しが困難になるのではないかと。防災計画の見直しが必要である。
- (事務局) ハザードマップ等を参考に、防災計画の見直しを検討する。
- (委員) 入学者定員が未達だったということだが、なぜだと考えるか。多感な中学生の心を知ることが大切である。入学生にアンケートは行っているのか。
- (事務局) 行っている。約半数の生徒がオープンスクールに参加している。受験を決めたきっかけとして影響を受けた人は、保護者や兄弟などが多くなっており、兄弟姉妹で本校に通う生徒も多い。
- (委員) 多様性、共通性を問われる現代の社会において、中学生に訴えかけていける言葉を持つと良い。瀬戸高校に行けば「やりたいことができる」「自分で選択できる」という部分をしっかりアピールすると良いのではないかと。
- (事務局) 学校の魅力発信をするにあたって、十分に留意していきたい。
- (委員) DXを推進すると、良い点も悪い点もあると思われる。高校生が生成AIやSNSなどを活用する中で、だます側になることもある。情報モラル等をどのように教えているか。
- (事務局) 資料にもある通り、フェイク情報を見分けたり、ファクトチェックをしたりすることの重要性を指導している。
- (委員) 先生方の時間外在校等時間について、45時間以上・80時間以上の人数が非常に多いことに驚いている。一般企業では考えられない数値である。これでは、生徒に教える時間が少なくなるのではないかと心配する。
- (事務局) 校務DXを進め、業務の平準化と精選を行い、業務の効率化と環境整備に努めるなどしているが、学校行事等の関係で、時間外在校等時間が増えてしまう時期もある。今後も時間外業務が減少するよう努めていくつもりである。
- (委員) 多様性・協調性が重視されるようになるので、スクールポリシーの中に一人ひとりを大切に、様々な教育活動があってやりたいことを選択できるような内容があればよいのでは。

## 8 その他

- (1) 教頭より
- (2) 第2回学校運営協議会について（昨年度は10月29日15:00～16:30）